

大磯町郷土資料館所蔵の唐箕について

* 佐川 和裕

<はじめに>

大磯町郷土資料館では、収蔵資料の目録化を進めている。これまでにも、『大磯町郷土資料館収蔵資料目録 絵はがき I』(平成 13 年)、『大磯町郷土資料館収蔵資料目録 絵はがき II』(平成 14 年)、『大磯町郷土資料館収蔵資料目録 民俗(生活)資料—衣—』(平成 15 年)、『大磯町郷土資料館収蔵資料目録 民俗(生活)資料—食—』(平成 16 年)を刊行したほか、『年報—平成 9 年度—』では「館所蔵民具目録—農具 I—」と題して、農耕に関する民具のうち、鍬(ウナイグワ、サクリグワ、トグワ、マンガ)を実測図入りで集成している。今後も引き続いて目録化の作業を進め、積極的に地域へ情報を還元していく予定である。

ところで、博物館の民具担当者や大学の民具研究者などによってネットワークされているパラサイト(関東民具研究会)では、平成 12 年から流通民具(千歯扱き・足踏み脱穀機・動力脱穀機・唐箕・万石)をテーマとして調査を進めている。当館でもこれに参加し、所蔵資料の再確認と採寸を実施して調査票を提出した。この調査は、神奈川県立博物館の共同研究としても位置づけられており、その成果はいざれ報告書等で還元されることになろうが、パラサイトにおいても独自に論考集の編集が進められている。本来ならば当館収蔵資料の概略と考察をまとめ、論考集へ投稿すべきであったが、残念ながら時間的猶予がなかったため執筆に参加することができなかつた。そこで、あらためてこの場を借り、独自にまとめておくことにした。

<調査収集の対象地域について>

当館は「湘南の丘陵と海」というテーマで活動を行っている。丘陵というのは、いわゆる大磯丘陵を指しており、調査収集対象も同地域が中心となっている。西の足柄平野と、東の相模平野の狭間に位置する大磯丘陵は、平野部との環境に大きな違いがあり、同時にそれは生業内容を始めさまざまな生活文化の特色となって現れている。例えば、足柄平野の西郡(にしごおり)と呼ばれていた地域では、男が本田の準備をしている間に女が苗を取って田植えをすることが一般的であり(女の田植え地帯)、相模平野では女が苗取りをおこない男が田植えをすることが一般的であった(男の田植え地帯)。足柄・相模両平野の狭間に位置する大磯丘陵域では、谷戸田を中心とした狭小な水田が多いため、基本的には家族で人手が足りることが多い。しかし、クメンのいい(経済力のある)家では奉公人を置いたり、多少広い水田を持つ家や地域では、テマガフリ、ハンデマ、スケといった互助機

(* 当館学芸員)

能が機能していた。また、一部の家や地域では、西郡から腕利きの女性を依頼して田植えをしてもらっていたこともあったという。いわば、女の田植えと男の田植えが混在する地域といえよう。

この他にも、盆行事の際、屋外に作るツカやスナモリと呼ばれる祭壇についても特徴がある。小田原市の国府津や曾我から二宮町あたりまでの、いわゆる大磯丘陵西部では、フジサンなどと呼び、文字通り富士山のように大ぶりな砂山(土山)を作る家が多い。一方、大磯町以東ではやや小ぶりな砂盛りとなり、砂山というよりも壇という印象が強い。このような事例からすると、大磯丘陵は、酒匂平野・相模平野の双方の生活文化の重複位置にあることがうかがわれる。

比較的近距離にありながら東西の平野部との差異についてさまざまな事象において顕在化していることを考えれば、当然ながら内陸の神奈川県央部や県北部との差異も十分に意識しながら地域分析していく必要があろう。今回のような脱穀具をはじめとした生業用具についても、東海道本線沿線であるという地理的な特性や条件も見逃せない。鉄道という交通手段を得た明治中期以降、販路や流通構造において、当地域ならではの大きな特色を見出せる可能性もある。このような点を常に念頭に置いておかなければならない。

<当館所蔵唐箕と若干の分析について>

唐箕は、胴内部に取り付けられた羽を回転することによって生じる風力を利用して、粉摺り後の米と粉殻や塵などを選り分ける道具である。現在確認できる日本で最も古い唐箕は、明和 4 年(1767)の紀年を持つ京都府立総合博物館所蔵の唐箕とされるが、貞享元年(1684)に記された『会津農書』では、同時期に福島県会津地方で使われていることが確認されている。なお、唐箕には、脚の数や選別口の位置、漏斗の形や棚板の有無、風を起こす回転軸の取り付け方などによって、西日本に多い型や東日本に多い型として特徴づけられている。また、選別口のないものや、とおし付の唐箕などの特異な型もみられる。以上の先行研究に明らかになっている事例を参考にしながら、当館所蔵の唐箕について若干の傾向を見てみたい。なお、形態の分類やその表記などは、基本的にはパラサイトで作成・使用した調査票によっている。

さて、当館では 26 点の唐箕を所蔵している。ほとんどが大磯町内で使用されていたものだが、若干ではあるが中井町、大井町で使用されていたものも含まれている。大磯丘陵域全体を考えた場合には、もう少し幅広い地域からの資料収集が望まれるが、凡そその傾向は掴むことのできる数量であると考えている。

まず、唐箕の呼称であるが、当館の収集対象地域である大磯丘陵域では、トウミ、トアオリ、アオリと呼んでいる。足柄平野に位置する足柄上郡大井町から受け入れ

た資料は、いずれもトアオリと呼ばれており、大磯丘陵西部の二宮町や中井町などではトアオリ、またはアオリと呼ぶのが一般的である。大磯町内では、呼称が重複している場合が多いものの、傾向としては西部の旧国府町方面ではトアオリと呼び、東部の旧大磯町方面ではトウミと呼ぶことが多いようである。トウミ、トアオリの呼び名は、古い資料・新しい資料ともに同じ呼び名を使っていることから、呼称の違いは少なくとも唐箕の新旧によるという理由ではなさそうである。双方の呼び名を承知している話者もあり、むしろ話者の出身地が影響していることが伺われる。いずれにしても、大磯町の行政区域だけを取り上げても、たいへん小さな範囲であるにもかかわらず、呼称に違いがみえることは実に興味深い。

さて、当館所蔵唐箕 26 点中、紀年が墨書きされているのは次の 9 点である。

No. 4 (明治 33 年購入)

No. 1 (明治 36 年製作)

No.10 (大正口口購入)

No. 6 (昭和 4 年購入)

No. 9 (昭和 20 年購入)

No.19 (昭和 21 年購入)

No.17 (昭和 22 年購入)

No.16 (昭和 24 年購入)

No. 2 (昭和 25 年購入)

当館において最も古いと思われる唐箕は、大磯町高麗から受け入れたNo.4 で、明治 33 年の紀年を持っている。舟形の漏斗を上乗せし、棚板を持ち、2 つの選別口に 12 本の支脚をもった比較的大型のものである。

これまで、当地域での聞き取り調査では、新しい時期の唐箕ほど小型軽量化するといわれてきた。たしかに、当地域では小型の唐箕が見られるようになるのは概ね戦後であるが、一方では同時期にそれまでと同じような大型の唐箕を購入している家も少なくない。ちなみに、購入代金の記録もあり、No.9 は昭和 20 年 10 月に 250 円で、No.16 は昭和 24 年に 2000 円で購入していることが分かる。僅か 4 年の購入時期の違いでこれほどまでに金額に差があるのは、貨幣価値の変化だけではなく、性能の差異によるものであろうか。昭和 20 年に 250 円で購入しているのは從来から使われていた大型の唐箕であり、昭和 24 年に 2000 円で購入したのは小型軽量化されたメーカー品といいうことができる。小型軽量化された新しい製品も徐々に普及しつつあった一方で、昭和 25 年に至っても相変わらず從来の大型の唐箕が購入されている (No.2)。したがって、製品の選択は、購入者の経済事情に合わせた判断によるものではないかと考えれば、実際に残された資料に大型の唐箕が多いこともうなづけよう。ただし、唐箕は米麦だけではなく、落花生など豆類の利用も頻繁であったことから、機能上それらが大型・小型唐箕の選択に関係があるのかどうかも確認する必要があるかも知れない。

次いで、当館の収蔵している唐箕の形態的な特徴を見てみよう。まず、比較的古い時期から使用されている大型の唐箕では、漏斗はほとんどが舟形または三角形をした上乗せ式である。選別口を 2 つ持ち、一番口は正面、二番口は裏面に設置されている。また、脚の数は 10 本ないし 12 本となっており、東日本あるいは関東地方において一般的であるとする唐箕と同様の特徴を備えている。

しかし、戦後になると、中部や西日本で製作された小型唐箕がみられるようになる。漏斗が棚板に組み込まれた固定式ものもある。No.16 を除いては、選別口は 2 つある。選別口の付け替えができるものもみられるが、そのほとんどが、一番口を正面、二番口を裏面に設置している。僅かにNo.23 において、使用者は 2 つの選別口とも正面に設置して使用していた。その理由については、残念ながら使用者 (明治 29 年生) が既に亡く、聞き取ることはできない。

なお、これらの小型唐箕は、いずれも脚の数が 4 本であるということも大きな特徴である。

また、製造元が分かるものは次のとおりである。

No. 1 (愛甲郡厚木町・鈴木梅吉)

No.12 (京都府相楽郡奈良電泊田停留所前・山際農機具
商会／大正式唐箕小型)

No.14 (愛知県宝飯郡赤坂町・株式会社指波製作所／サ
シナミ式唐箕)

No.16 (愛知県宝飯郡赤坂町・株式会社指波製作所／指
波式唐箕)

No.17 (秦野町東道・本吉喜一)

No.18 (愛知県宝飯郡赤坂町・株式会社指波製作所／サ
シナミ式唐箕)

No.20 (トキワ商会)

No.22 (愛知県宝飯郡赤坂町・株式会社指波製作所／サ
シナミ式新生號)

No.23 (小型理想號)

No.24 (サシナミ式・小型理想號)

No.25 (愛媛県口智郡小西村・安野農林株式会社／安野
式ウチバ唐箕)

このうち、比較的大型の唐箕は 2 点である。No.1 は、「干時明治三十六年癸卯年第八月製作」とある。No.17 は「昭和二十二年八月二十六日求」とあり、戦後に購入したことが分かる。購入時期こそ違うが、いずれも量産でなく職人が製作したものであろうか。今のところ製作者の情報を持ち合わせておらず、今後の調査に譲りたい。

製造元が確認できるものでは、愛知県宝飯郡赤坂町の株式会社指浪製作所製が最も多い。そのほとんどが戦後になってからの購入とみられるものの、一部には戦前に使用していたという情報も聞き取っている (No.23)。

No.16・No.18・No.24 についても、いずれも指浪式 (またはサシナミ式) と記されているため、指浪製作所製であることが分かる。なお、ここには柏屋という名が併記さ

れている。No.16には「昭和二十四年六月十日 二之宮柏屋ニテ求ム」とあり、柏屋というのは当時二宮町にあった農機具販売店の名であることが類推される。使用地は大磯町西久保と国府新宿であり、生活用品をはじめ農機具の購入には、距離的に近い隣接する二宮町へ行くことが多かったということも聞き取られている。なお、No.25の安野式ウチバ唐箕は、胴部に昭和24年に開催された全日本農機具大博覧会において最高賞牌を受賞した旨が記されているため、それ以降に購入したことが分かる。

〈おわりに〉

以上、ごく簡単ではあるが、当館が所蔵している唐箕について概観し、若干の分析を試みた。しかし、当館が対象としている狭い調査収集地域では、限られた傾向のみしか見出すことはできない。これにはもちろん広範囲での調査が必要であり、当地域以外の状況を知ることで

当地域の特色も更に明らかになっていくことになるだろう。その意味では、神奈川県立歴史博物館やパラサイトによる報告書や論考集の刊行が待たれるところである。

なお、当初は、冒頭に述べたパラサイトの調査対象である脱穀具全般において概略をまとめるつもりでいたが、紙幅の関係から果たせなかった。別の機会としたい。

【参考文献】

- ・小坂広志「新たに発見された唐箕一年号を有する唐箕一覧表の作成」『民俗』167号 1999 相模民俗学会
- ・島山 豊「唐箕二・三」『民俗』169号 1999 相模民俗学会
- ・加藤隆志「資料紹介 明治十年銘の唐箕」『民俗』173号 2000 相模民俗学会
- ・『大磯町史8 別編民俗』2003 大磯町
- ・刈田均編『犁・馬鍬・唐箕』2005 横浜市歴史博物館

大磯町郷土資料館所蔵唐箕一覧

No.	(受入番号)	(資料名)	(使用地)	(備 考)
1	1983-1101	トウミ	大磯町国府本郷	長1,610×奥562×高1,180 「□□□先雅品 干時明治三十六癸卯年第八月製作 □□修得到梅花」「請合 販売所 愛甲郡厚木町 製造元 鈴木梅吉 賣口人 奈良輪熊吉」
2	1984-0501	トウミ	大磯町東町	長1,560×奥565×高1,190 「大磯町北下町伊藤良助 昭和貳拾五年九月貳拾四日求之」
3	1984-0601	トウミ	大磯町国府本郷	長1,660×奥660×高1,200
4	1984-1001	トウミ	大磯町高麗	長1,660×奥650×高1,160 「明治参拾三年庚子九月吉日 中郡大磯町高麗村五百十七番地 内田孫兵衛」
5	1984-1108	トウミ	大磯町国府本郷	長1,655×奥645×高1,210
6	1984-1202	トアオリ	大磯町国府新宿	長1,670×奥530×高1,150 「昭和四年六月吉日 府川弥作 三十才」
7	1985-0202	トウミ	大磯町黒岩	長1,040×奥635×高1,025
8	1986-0806	トウミ	大磯町国府本郷	長1,500×奥540×高1,165
9	1990-0506	トウミ	大磯町寺坂	長1,590×奥418×高1,180 「昭和二十年十月新調 代金貳百五拾圓 中郡國府村寺坂六三九湯口正巖」
10	1991-1101	トウミ	大磯町高麗	長1,705×奥560×高1,130 「大正□□□… 神……」
11	1991-1201	トアオリ	大磯町生沢	長1,640×奥535×高1,200
12	1991-1205	トアオリ	大磯町国府新宿	長1,110×奥680×高1,000(漏斗欠) 大正式唐箕小型 山際農機具商会製作 発賣元 京都府相樂郡奈良電狹田停留所前

No.	(受入番号)	(資料名)	(使用地)	(備考)
13	1993-1102	トウミ	大磯町高麗	長1,775×奥535×高1,160
14	1994-0504	アオリ	中井町井ノ口	長985×奥480×高1,145 新生號 サシナミ式唐箕(大歯回転数70回) 農林省通産省指定工場 愛知県宝飯郡音羽町赤坂 株式会社指浪製作所
15	1994-1202	トウミ(トアオリ)	大磯町国府新宿	長1,630×奥565×高1,165
16	1994-1204	トウミ	大磯町国府本郷	長1,043×奥503×高1,055 指浪式唐箕 指浪製作所 愛知県宝飯郡赤坂町 尺四巾 中型 「山口浦藏 昭和二十四年六月十日 二之宮柏屋ニテ求ム ￥2,000」
17	1995-0403	トアオリ	大磯町国府本郷	長1,565×奥555×高1,210 秦野町東道 本吉喜一 「昭和二十二年八月二十六日求 山口栄助」
18	1995-1008	トウミ	大磯町西久保	長1,067×奥610×高1,170 柏屋 サシナミ式唐箕(大歯回転数70回) 農林省通産省指定工場 愛知県宝飯郡音羽町赤坂 株式会社指浪製作所
19	1997-0405	トウミ	大磯町大磯	長1,580×奥560×高1,180 「大磯町山王町 小川半之助 昭和廿一年四月吉日」
20	1997-0802	トアオリ	大井町	長950×奥580×高1,200 トキワ商会
21	1997-0802	トアオリ	大井町	長1,620×奥513×高1,265 *漏斗は別物の可能性
22	2001-0204	トアオリ	大磯町西小磯	長972×奥538×高1,123 新生號 サシナミ式(大歯回転数70回) 愛知縣株式會社指浪製作所謹製
23	2001-0306	トウミ	大磯町国府新宿	長1,075×奥576×高1,035 小型理想號(大歯回転数60回)
24	2001-1007	トアオリ	大磯町国府新宿	長1,140×奥693×高1,164 柏屋 小型理想號 サシナミ式
25	2003-1008	トウミ	大磯町国府本郷	長960×奥635×高1,200 安野式ウチバ唐箕 愛媛縣口智郡小西村 製造元 安野農林株式会社
26		トウミ		長1,620×奥550×高1,190 *漏斗が別物の可能性



No.1 トウミ (大磯町国府本郷)



No.14 アオリ (中井町井ノ口)